



秋

小麦 No.3

のう じ でん そう 農 時 電 送

J A 新はこだて若松支店、J A きたひやま、J A 今金町
 檜山農業改良普及センター檜山北部支所 TEL 84-5514

秋まき小麦 止葉期の追肥・管理について

小麦の生育は平年並で、生育量は過繁茂の傾向です。
 ただし、一部生育が早いほ場もあるため注意してください。
 <秋まき小麦の生育状況（5月15日現在）>

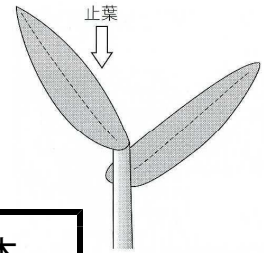
	起生期	幼穂 形成期	止葉期	出穂始	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)
本年	4/ 8	4/27	—	—	42.4	1459
平年	3/31	4/25	5/21	5/30	43.3	1252
遅速・差	-8	-2	—	—	-0.5	

止葉期頃の追肥は、粗原収量の確保と子実の充実、タンパクの向上につながります。特に「きたほなみ」は生育後半の追肥が効果的です。ほ場の茎数・葉色等を確認し、適期に追肥を行きましょう。

ジシアン(Dd)、サミットコートなどの肥効調節型肥料で追肥を行っている場合も、ほ場の茎数・葉色等を確認し、止葉期頃の追肥を検討して下さい。

★まずは止葉期を確認！

止葉期：止葉が完全に展開した茎が、
 全茎の40～50%になった日



★本年のきたほなみの窒素施肥体系例

止葉期の上位茎 (m ² 当たり本数)	1000本 以上	700本～ 900本	700本 以下
施肥窒素量	無追肥	2 kg/10a	4 kg/10a

★硫安1袋(20kg)＝窒素約4kg

★上位茎数＝最上位展開葉の葉耳高が10cm以上の茎（穂になりそうな茎）

茎数が特に多いほ場は、葉色と草丈を考慮して追肥量を加減して下さい。判断が難しい場合は、J A、普及センターへ相談して下さい。

★倒伏軽減

薬剤使用例

薬剤名	有効成分	施用量	使用時期	使用回数
サイコセルPRO	クロルメコート	200～300ml	出穂前20～10日 (草丈約40～60cm)	2回以内 幼穂形成期は1回以内 幼穂形成期後は1回以内
カルタイム フロアブル	プロヘキサジオン	150～200ml	止葉期～出穂始期	1回
エスレル10	エテホン	300～500倍 (333～200ml)	止葉期～出穂始期	1回

☆病害防除

近年、赤さび病、葉枯れ症の発生が目立ちます（止葉が枯れ、成熟期までもたず、収量・品質が低下します）。開花期が多湿条件の場合は赤かび病や葉枯れ症状、乾燥条件の場合は赤さび病が発生します。以下の剤で、止葉期防除を必ず行いましょう（出穂前の赤かび病防除を行う前になります）。

薬剤使用例

薬剤名	系統名	施用液量	使用時期	使用回数
チルト乳剤25	DMI	1000倍	収穫3日前まで	3回以内
ミリオネア フロアブル	SDHI	4000～ 8000倍	収穫7日前まで	4回以内 (根雪前は2回以内、 根雪後は2回以内)
イントレックス フロアブル	SDHI	2000倍	収穫7日前まで	3回以内

○●心に余裕をもって農作業を行いましょう！！●○